

エコアクション21

環境活動レポート

運用期間：平成24年4月～平成25年3月



立石紙工株式会社

2013年4月30日作成

目次

1. 環境方針	・・・ 1P
2. 組織の概要	・・・ 2
3, 4. 認証・登録範囲、対象期間	・・・ 2
5. 環境目標	・・・ 3
6. 環境活動計画	・・・ 4
7. 環境目標の実績	・・・ 5
8. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	・・・ 6～7
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	・・・ 8
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	・・・ 8

1. 環境方針

基本理念

立石紙工株式会社は、世界の環境首都を目指す北九州市で紙管、片面段ボールの製造、及び包装資材の製造・販売を営む企業の責務として、地球環境の保全を最重要課題と位置づけ、全ての事業活動を通じて環境負荷低減に積極的に取り組みます。

行動指針

環境経営システムを構築・運用し環境関連法規等を遵守するとともに、環境負荷の低減に取り組みます。以下の行動指針に基づき、環境目標及び活動計画を定め、定期的な見直しを行い継続性のある活動を展開します。

1. 二酸化炭素の排出量を削減します。
2. 廃棄物の削減に努めます。
3. 水使用量の削減
節水に努め、水使用量を削減します。
4. グリーン購入を推進します。
5. 生産効率の向上に努め、製造ロスを削減します。
6. 事業活動に関連する環境関連法規や条例等を遵守します。
7. 環境配慮製品の販売を促進します。
8. 教育の実施により全従業員の環境保全に向けた意識の向上に努めます。
9. この環境方針は、当社のホームページを通じ広く一般に公表します。

2012年7月10日

立石紙工株式会社

代表取締役 立石隆司

2. 組織の概要

(1) 名称および代表者名

立石紙工株式会社

代表取締役社長 立石 隆司

(2) 所在地

本社 福岡県北九州市八幡西区築地町20-33

熊本工場 熊本県菊池市旭志川辺1285-2

(3) 環境管理責任者及び連絡先

専務取締役 立石 惠庸

TEL 093-641-3561

FAX 093-622-4643

Email y.tateishi@tateishi-paper.co.jp

(4) 事業内容

紙管、片面段ボールの製造及び包装資材の製造・販売

(5) 事業規模 2012年度(2012/4~2013/3)

年間売上額 4億3000万円

製品生産量 2,500t

従業員数 35名

延床面積 4398㎡

(6) 事業年度 4月~3月

3. 認証・登録の対象範囲

(1) 対象事業者名 立石紙工株式会社

(2) 対象事業所 本社

(3) 対象外事業所 熊本工場 ただし、平成28年に対象事業所に拡大する

(4) 対象活動 紙管・片面段ボールの製造及び包装資材
の製造・販売

4. レポートの対象期間及び発行日

対象期間：平成24年4月1日~平成25年3月31日

発行日：平成25年5月6日

5. 平成24年度及び中期 環境目標

環境目標		単位	平成22年度 (基準年度)	平成24.8~10月 目標(運用期間)	平成24年度 目標(H24.4-H25.3)	平成25年度 目標	平成26年度 目標
1	二酸化炭素排出量の削減	Kg-Co2/ 百万円	773.6	750.4以下 (3%)	750.4以下 (3%)	734.9以下 (5%)	734.9以下 (5%)
	1-1 軽油使用量の削減	ℓ/百万円	116.3	112.8以下 (3%)	112.8以下 (3%)	110.5以下 (5%)	110.5以下 (5%)
	1-2 重油使用量の削減	ℓ/百万円	86.5	83.9以下 (3%)	83.9以下 (3%)	82.2以下 (5%)	82.2以下 (5%)
	1-3 電気使用量の削減	kWh/ 百万円	408.3	396以下 (2%)	396以下 (2%)	396以下 (2%)	396以下 (2%)
2	廃棄物総排出量の削減	ton/百万円	0.015	0.014以下 (7%)	0.014以下 (7%)	0.014以下 (7%)	0.014以下 (7%)
3	総排水量(使用水量)の削減	m3/百万円	3.7	3.6以下 (3%)	3.6以下 (3%)	3.5以下 (5%)	3.5以下 (5%)
4	グリーン購入の推進	切替品目数	0	1以上	1以上	2以上	3以上
5	歩留まりの向上 (有価廃棄物の削減)	ton/百万円	0.74	0.72以下 (3%)	0.72以下 (3%)	0.7以下 (5%)	0.7以下 (5%)
6	環境配慮製品の販売促進 (片面段ボールの新規受注)	件	0	2以上	2以上	3以上	3以上

* ()内%は、基準年度(H22)をベースとした削減率を示す。

*購入電力の排出係数については、平成22年度の九州電力の二酸化炭素排出係数0.385を使用。

6.平成24年度 環境活動計画

6-1. 二酸化炭素総排出量の3%削減

取組目標	活動項目
1 軽油使用量の3%削減	1 配車計画の効率化 2 省エネドライブの励行 3 こまめな点検、整備
2 重油使用量の3%削減	1 ボイラーのアイドル時間の短縮 2 適切なブロー率と水質管理 3 蒸気もれの防止と不使用時のバルブ閉止 4 燃料の転換の検討
3 電気使用量の2%削減	1 冷暖房温度の適正管理 2 昼休みの消灯 3 昼休みの機械電源OFF

6-2. 廃棄物総排出量の7%削減

取組目標	活動項目
1 リサイクルできない紙の削減	機械の点検、清掃による油汚れ品の削減
2 廃棄木パレットの削減	破損品、使用不適サイズのパレットを受け入れない

6-3.総排水量(水使用量)の3%削減

取組目標	活動項目
1 節水活動	1 余分な水を流さない 2 ボイラーの効率運転

6-4. グリーン購入の推進

取組目標	活動項目
備品のグリーン購入適合品への転換	グリーン購入適合商品へ切替える

6-5. 歩留まりの向上(有価廃棄物の3%削減)

取組目標	活動項目
製品ロスの削減	1 作業改善による運転開始時の不良品の削減。 2 5S活動による生産性向上

6-6. 環境配慮製品の販売促進(片面段ボールの新規受注獲得)

取組目標	活動項目
環境配慮製品の販売促進	片面段ボール・紙管の新規受注獲得

7. 目標の実績

平成24年4月～平成25年3月の事業年度間における目標に対する実績は以下の通りでした

環境目標		単位	平成22年度 (基準年度)	平成24年度 目標	平成24年度 実績	判定	平成25年度 目標	平成26年度 目標
1	二酸化炭素排出量の削減	Kg-Co2/ 百万円	773.6	750.4以下 (3%)	666.1 (11%)	○	696以下 (10%)	696以下 (10%)
	1-1 軽油使用量の削減	ℓ/百万円	116.3	112.8以下 (3%)	113 (0%)	○	110.5以下 (5%)	110.5以下 (5%)
	1-2 重油使用量の削減	ℓ/百万円	86.5	83.9以下 (3%)	56.8 (33%)	○	60.6以下 (30%)	60.6以下 (30%)
	1-3 電気使用量の削減	kWh/ 百万円	408.3	396以下 (2%)	409.8 (△3%)	×	404.2以下 (1%)	404.2以下 (1%)
2	廃棄物総排出量の削減	ton/百万円	0.015	0.014以下 (7%)	0.017 (△21%)	×	0.014以下 (7%)	0.014以下 (7%)
3	総排水量(使用水量)の削減	m3/百万円	3.7	3.6以下 (3%)	2.1 (42%)	○	2.8以下 (25%)	2.8以下 (25%)
4	グリーン購入の推進	切替品目数	0	1以上	0 △1品目	×	1以上	1以上
5	歩留まりの向上 (有価廃棄物の削減)	ton/百万円	0.74	0.72以下 (3%)	0.72 (3%)	○	0.71以下 (4%)	0.71以下 (4%)
6	環境配慮製品の販売促進 (片面段ボールの新規受注)	件	0	2以上	3.6 +1.6件	○	3以上	3以上

* 1. 電気の二酸化炭素係数は、九州電力の22年度0.385を用いた。 * 目標の%は対基準年(平成22年度)の数字
判定 ○:達成できている ×:達成できていない -:判定できない、該当しない

8. 環境活動計画の取組結果

環境目標		取組結果
1	二酸化炭素排出量の削減	総括すると、老朽化した設備の撤去と新設備への更新が大きく奏効した。
	1-1 軽油使用量の削減	気温や帰省による道路の混雑など、季節要因もトラックの燃費に影響が大きいことがわかった。車両別にみると、新車ほど燃費が良い傾向にある。
	1-2 重油使用量の削減	老朽化した設備の撤去、新設備への更新、ボイラーの効率的運転の3要因が貢献した。
	1-3 電気使用量の削減	重油同様、老朽化した設備の撤去とエアコンを含む新設備(省エネ型コピー・FAX複合機など)への更新、全社的な電気配線のやり替えが奏効した。しかし、通年でみると2011年11月に事務所、食堂、社長室のエアコンの動力ををガスから電気に転換したことで目標の数値を達成できなかった。
2	廃棄物総排出量の削減	設備の更新により、廃棄する油の付着した紙の発生が減少した。手順書に従い不要な木パレットの受け入れも減少した。通年では5月にシロアリ対策で廃材などを大量に廃棄したため目標達成できなかった。
3	総排水量(使用水量)の削減	漏水などアクシデントもあったが手順書が守られ、目標達成できた。
4	グリーン購入の推進	絶対的な備品購入件数が少なく、使用しているものがすでに適合品であったり、適合品のほうがはるかに価格が高かったりで転換が進まなかった。
5	歩留まりの向上 (有価廃棄物の削減)	特に片面段ボールを製造する設備の更新により、運転開始時の製品ロスが減少した。
6	環境配慮製品の販売促進 (片面段ボールの新規受注)	不況の為か、見積り依頼件数も非常に多く、新規受注件数も目標達成できた。 特に片面段ボールの新規受注が多かった。

9. 次年度の取組内容

環境目標		次年度の取組内容
1	二酸化炭素排出量の削減	今後は運用期間中のような大きな削減要因が望めないので、全社員の教育を含めた地道な努力が目達成に不可欠かと思う。
	1-1 軽油使用量の削減	整備などを含め他の要因と燃費との因果関係の調査を続け、削減に努力したい。
	1-2 重油使用量の削減	段取り時間と、機械のアイドル時間をよりいっそう短縮することでボイラーの運転効率を高めたい。設備撤去の影響で当初目標と実績との乖離が大きすぎるため、目標を上方修正する。
	1-3 電気使用量の削減	「節電ステッカー」を増やすなど、地道な節電で目標達成に努力したい。 2011年に一部ガスから電気への燃料転換があったため、目標を下方修正する。
2	廃棄物総排出量の削減	現状を継続していきたい。
3	総排水量(使用水量)の削減	「節水ステッカー」を増やすなど、地道な節水とボイラーの効率的運転で削減に努力する。 設備撤去の影響で当初目標と実績との乖離が大きすぎるため、目標を上方修正する。
4	グリーン購入の推進	カタログをこまめに調査し可能なものから切り替えたい。
5	歩留まりの向上 (有価廃棄物の削減)	5S活動と並行して全社的に歩留まりの向上に努めたい。
6	環境配慮製品の販売促進 (片面段ボールの新規受注)	今後も市場調査を続け化成品緩衝材からの切替など、片面段ボールと紙管の新規受注に努めたい。

9. 環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法の遵守状況を確認の結果、違反はありませんでした。
また、関係当局からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

昨年8月からEA21の取組を開始して9ヶ月が経過しました。
8月から3ヶ月の試行運用期間中はいとも簡単に目標が達成できたような気がしましたが、冬を迎え寒さが厳しさを増すにつれエネルギー消費量も増加し目標達成が容易ではなくなりました。

しかし、弊社の事業年度1年分の詳細なデータをとる中、途中漏水などのトラブルもありましたが季節要因を含めEA21の活動に影響を与える様々な要因があるということを実感するとともに把握でき、やっとスタートラインに立ったという感じです。

昨年度は、製造ラインの大幅な撤去などがあり、数値的にはある程度目標をクリアできましたが、今年度は大きな材料が見当たらず、かなり厳しいものになりそうです。教育により意識を浸透させ、地道な努力がなにより大切かと思えます。